

番号	31 - 22	申請者	看護師 深田 麻里
<p>【審査申請課題】</p> <p>ALS患者の排泄援助における看護師の感じる困難さ</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>筋萎縮性側索硬化症(以下ALSと称する)は根治療法が確立されておらず、徐々に全身の筋肉が萎縮し筋力が低下する進行性の疾患である。ALS患者は呼吸障害や嚥下障害の進行に伴い、気管切開や胃瘻造設などの医療的処置の意思決定のみならず、食事や排泄といった日常生活全般においても意思決定をせまられる場面がある。また、進行に伴い自立していた排泄動作は徐々に困難となり他者の援助が必要となるため、身体機能の喪失、自尊心の喪失体験を繰り返していくことが考えられる。そのような状況にあるALS患者への排泄援助において、困難さを感じる看護師は少なくない。</p> <p>ある先行研究では、看護師が行う排泄援助は、排泄援助のパターンについてやりとりをしながらすすめることや気配を消すことなどの日常倫理に支えられていることが明らかにされていた。一方、排泄援助の対象をALS患者と限定し明らかにした研究はみあたらなかった。そこで今回の研究では、ALS患者の排泄援助における看護師が抱える困難さを明らかにすることで、患者により寄り添った排泄援助につなげることができると考える。</p>			
審査結果	承認 (令和1年9月24日)		